

つくばね

～地域から世界へ、支援と協力の輪を広げよう～



No.74

発行：令和7年6月25日
 茨城県青年海外協力隊を育てる会
 発行人：小川一成
 編集：広報文化委員会
 事務局：つくば市高野台3-6 〒305-0074
 JICA筑波センター内
 TEL 029(838)1111
 印刷：合資会社おおた

【訃報】



小松崎弘尤事務局長が去る2月21日 ご逝去されました。

小松崎様は平成9年(1997)当会設立時に初代国際委員長として就任され、平成11年(1999)三代事務局長に就任されました。それ以来26年間にわたり事務局長を務められて当会の運営に多大な貢献をされました。

享年85歳、ここに謹んで哀悼の意を捧げます。

尚、次号に追悼の記事を掲載する予定です。編集作業の都合によりご報告が遅れましたこと、お詫び申し上げます。

『新任のご挨拶』

昨年9月にJICA筑波連携推進課に着任された育てる会が最もお世話になる八星 真里子^{やつぼし}さんに挨拶代わりの寄稿をお願いしました。

JICA筑波 連携推進課 八星真里子

昨秋より、JICA筑波でボランティア事業を担当しております八星です。私自身、元・ニカラグア隊員で、多くの方々に支えられ、育てていただきました。今回は私の狭い視野が広がった体験をご紹介します。

到着してしばらくたち、先輩隊員が日本語の挨拶や単語を現地の子ども達に教えていることを知った私は、その様子を冷ややかに見ていました。「将来日本に行ける子なんて殆どいないのに、日本語を教える意味はあるの?」

農村部の保健センターに配属された私には、若年妊娠・性感染症予防のための啓発活動が要請されていたので、日本語を教えることはせず、性教育の手伝いに専念していました。しかし3か月ほどしたある朝、村を歩いていると「オハヨー」と大きな声が聞こえてくるではありませんか。振り返ると7,8歳の少年が手を振りながら叫んでいます。そして母親に「日本語で朝の挨拶はオハヨーっていうんだよ!」と得意げに語っているではありませんか。

あの少年の誇らしそうな顔を、私は忘れることができません。何かの際に教えた“日本語の挨拶”は、彼にとっては教室では学べない特別な知識。それを知ったことはとびき

り嬉しいことだったのです。

衝撃と同時に自分の視野の狭さを恥ずかしく思いました。日本に来るかどうか、それだけを基準に日本語を教える意味を考えていたなんて……思い出だけでも顔を覆いたくなります。それからというもの、ちょっとしたタイミングで日本語を紹介するようになりました。ニカラグアの公用語スペイン語と日本語は響きが似ています。例えば「アキ」は日本語では秋、スペイン語では“ここ”、「カサ」は日本語では傘、スペイン語では“家”。発音しやすく覚えやすいけれど意味が違うことが面白いようで、日本語紹介は、場の雰囲気盛り上げるきっかけにもなりました。

半年もたつと、私の語学力も上達し、日本文化も紹介できるようになりました。村の子どもたちは、日本文化を通して「異なるあり方・考え方」が世界にあること、それぞれがとても魅力的であることを、実感をともなって理解していたようです。

協力隊を通じて得られた学びには枚挙にいとまがありません。改めて支えてくださった方々に感謝の気持ちがいっぱいです。これから挑戦しようという方々、現在各地で奮

闘中の隊員の方々、帰国された方々を支える側として貢献すべく尽力して参ります。そして、そのような方々を長年に

わたり応援し続けてくださった茨城県青年海外協力隊を育てる会の皆さまに、心よりお礼を申し上げます。



学校を借り切って日本文化紹介イベント！



好奇心旺盛な子どもたち



性教育活動中！

ラオスの子供達が来日

JICA筑波の記念式典と守谷市国際協力協会30周年記念式典他のイベントに参加するためルアンパバーンのC.C.Cからヌーカム所長とマニバン副所長に引率されて13人の子供たちがやってきました。

JICA筑波センター地球広場開所式に参加して

育てる会／理事・運営委員／樋渡まち子

2月8日上記式典が行われ、当会から小川会長をはじめ10名が出席した。

第1部開所式では、国際協力機構宮崎桂副理事長のご挨拶に続き、JICA筑波センター高橋亮所長よりJICA筑波45年間の軌跡及び地球広場についてご説明があった。

JICA筑波では45年の歴史の中で、研修事業・ボランティア事業・開発教育支援事業などを行い、近年は民間連携事業・農業創生ハブなど取り組みの幅が広がっているとのことだった。第2部はラオスの子どもたちによる発表。久しぶりにラオスの伝統芸能を楽しんだ。今回はケーンという日本の笙に似た楽器の演奏が加わり演目の内容が更に充実していた。第3部ではスタッフの案内で地球広場を見学さ

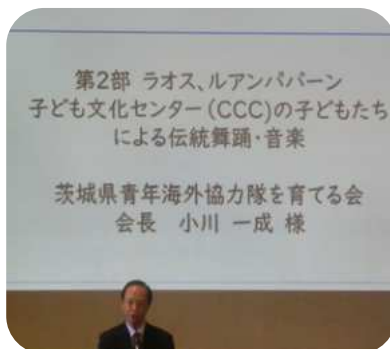
せていただいた。1階ロビーには「食と農」の広場が設けられ、食糧危機や気候変動などに関する展示を見たり触れたり楽しく学べるようになっているので、是非家族で訪問されることをお勧めしたい。第4部は会食。参加者の皆さんと歓談しながら世界の料理に舌つづみ。大変内容の濃い式典だった。

尚、16日に行われた守谷市国際交流協会30周年記念式典において、今回の訪日最後となる子どもたちの発表があり、待望の人形劇エポックも披露された。ラオスの皆さん、感動を再びありがとう！khobchai!

事務局注：育てる会では今回の来日に必要な経費の約1/3を支援しました。



育てる会メンバーと共に



小川会長のあいさつ



バナーデザインコンテスト大賞受賞作
「私たちの大切な地球」
谷田部東中学校 1年 佐藤杏奈さん



伝統舞踊が始まりました



楽器演奏と歌



ケーンの演奏



地球広場の見学

隊員からの便り

派遣中の金井 美紀隊員からウガンダ便りが届きました

2023年度4次隊/ウガンダ/食用作物・稲作栽培 金井 美紀

食用作物・稲作栽培隊員としてアフリカにあるウガンダ共和国で活動中の金井美紀です。ウガンダは東アフリカに位置し、赤道直下の国です。暑い国をイメージされるかもしれませんが、標高が1200mと高いため年間を通して気温が約23℃と非常に過ごしやすい国です。水資源が豊富で、1年中自然豊かな緑に溢れることからイギリスのチャーチル元首相が”アフリカの真珠”と表現する程美しい国です。そして国民の約8割が30歳以下と勢いを感じる国です。

私が活動するホイマという地域は中西部にあり、首都のカンパラから車で約5時間の距離にあります。ニワトリが自由に歩き回ったり、牛使いが牛を放牧させていたり穏やかな時間が流れています。外を歩いていると、子どもたちに名前を叫ばれて駆け寄って来てもらえることが日々の癒やしです。井戸水を汲み、それを頭に掛けて運ぶ子どもたちの姿も日常の風景です。そんなのどかな風景が広がる地域にある、政府が運営する農業研究所で稲作の収量向上を目指した栽培方法の実験を行っています。また配属先で養蜂を行って

いることから、蜂蜜の副産物である蜜蝋から、再利用可能な食品ラップである「蜜蝋ラップ」の作成・販売を行っています。引き続き、稲の栽培実験や、蜜蝋ラップの販売拡大を行っていきたいです。また近隣稲作農家の訪問や、デモ圃場の設置も行う予定です。

私自身が発酵食品に興味があることから、納豆作りをしています。ウガンダには発酵食品はアルコール飲料しかなく、食品はあまり馴染みがありません。日本の食文化を知ってほしいこともあり、納豆と糠漬けの試食会を行いました。日本に滞在経験のある方を含めた4人に納豆、からし醤油で和えた納豆、野菜の糠漬けの味見をしてもらいました。気を遣ってくれたのか真意は分かりませんが、全て悪い反応ではありませんでした。日本に滞在経験のある方は、市販の納豆とは異なり臭いやネバネバ感も少ないことから、今回食べた方が好きと話してくれました。糠漬けよりも納豆が好きの方が多く、味なしと味付けでは好みが分かれる結果となりました。糠漬けの方が好きという結果になると予想し

ていたため、興味深い試食会となりました。

残りの1年強の期間で、広大で美しいアフリカの大地で更に活動に励むとともに、同僚や他の隊員と協働しながら

自身の能力の幅も広げていき、金銭では測れない豊かさについて考えを深めていきたいです。



首都にあるタクシーパーク



青い空にバナナプランテーションと赤土が美しい配属先の風景



密蝋ラップ作りのワークショップ



納豆と糠漬けの試食会

令和6年度2次隊県副知事表敬訪問・壮行会

JICA筑波 連携推進課 国内協力員 菅谷 茂之

令和6年11月21日(木)11時～、JICA海外協力隊 2次隊9名及び3名の帰国隊員が岩下泰然茨城県副知事を表敬訪問しました。同行者のJICA筑波センター高橋亮所長のご挨拶に続き各隊員の自己紹介(出身地・任国・職種)があり、副知事と和やかに懇談しました。これから出発する小林由芽隊員(青少年活動:ジブチ)種瀬柚季隊員(栄養士:ボリビア)宮本聡美隊員(障害児・者支援:ザンビア)福田大気隊員(青少年活動:ザンビア)内田佳奈隊員(栄養士:フィリピン)加藤英嗣隊員(環境教育:マラウイ)松本梓隊員(パレ

ーボール:ジンバブエ)渡邊真悠子隊員(障害児・者支援:ヨルダン)増田藍奈隊員(ソフトボール:ブラジル)からは現地での抱負を、また帰国された川松秀夫隊員(理科教育:南アフリカ)勝村貴子隊員(障害児・者支援:ルワンダ)大橋美月隊員(野菜栽培:ベナン)からは現地での思い出などが語られました。副知事から茨城県国際親善大使委嘱状授与・記念品贈呈が行われ、最後に任国の国旗を持ち記念写真を撮りました。



親善大使委嘱状を受ける
小林隊員



記念品(Tシャツ)を
受ける種瀬隊員



記念撮影

表敬訪問の後、JICA筑波センターへ戻り育てる会主催の壮行会が開かれました。

今回は4人の隊員に絞って「職種以外でやってみたいこと」について樋渡理事がインタビューしました。

1 内田佳奈隊員(栄養士 フィリピン つくばみらい市)

つくばみらい市の職員であり、現職参加第一号となった。市長さんや職員の方から快諾を得られ協力隊に参加することができたので、茨城を知ってもらいたい。つくばみらい市はこれという有名なものはないが、お米に力を入れている。フィリピンも米が主食の文化になっている。茨城の食や四季折々見える茨城の風景(桜など)とか、そういった文化を紹介して「茨城ってこういう所だよ」ということを現地の人に知ってもらう機会をつくっていききたい。大学時代にフィリピンで教育支援のボランティアを3週間したことがあり、その時に人の温かみや価値観を教えてくれたので、そのフィリピンに恩返しをしたい。

2 増田藍奈隊員(ソフトボール ブラジル 八千代町)

保健体育の教員免許を持っていて、現地の学校現場を見に行き、その地域の体育の特徴を見ながらソフトボール以外のスポーツを子どもたちに教えたい。ソフトボールを教える活動が放課後なので、昼間学校へ行って子どもたちと関わりたい。日系社会ということで、現地に和太鼓クラブや日本語学校があるらしいので、そこへも行ってみたい。日本人の習慣と現地の日系コミュニティの習慣が違ったりするので興味がある。また、ブラジルであまり知られていないスポーツを紹介したり、体験ができたらいいいと思っている。



参加者全員で

3 渡邊真悠子隊員(障害児・者支援 ヨルダン 龍ヶ崎市)

中東ということで不安がある…

習い事をやりたい。先輩隊員が現地の方に太鼓を教えてもらったり、アラビア語を勉強されたりしているので自分もやってみたい。ヨルダン大学に日本語教育で派遣される隊員がいるので、その大学の学生さんに日本語を教えたり、自分はアラビア語を教えてもらったりできたらいい。若い方はアニメとかまんがとかが人気なので、そこから日本語に入る方が多い。もう一つ、現地の民族楽器(ギターのようなもの)も習えたらいいと思っている。

4 加藤英嗣隊員(環境教育 マラウイ つくばみらい市)

マラウイの言葉・チェワ語を勉強して身につけたい。また、マラウイには他の国から支援をする方が入っているので、いろいろな国の人達と交流したい。教員を退職しての参加なので、やりたいことをやりたい。ナイロビの日本人学校に3年間勤務したことがあり、アフリカの人たちの雰囲気が好きなのでまた一緒に仕事をしたい。帰ってきたら国際協力の仕事をしたい。



軽食で懇談①



軽食で懇談②

これまで・これからの事業について

■これまでの事業報告 [令和6年12月～令和7年6月]

令和7年	12月 2 日(月)	令和6年度 第2回 理事会	JICA筑波センター
	12月 7 日(土)	第9回 運営委員会	中止
	1 月 18 日(土)	第10回 運営委員会	JICA筑波センター
	2 月 1 日(土)	第11回運営委員会	中止
	2 月 6 日(木)	ラオスより13名 同行者3名成田到着	
	2 月 8 日(土)	JICAつくばセンター45周年記念式典	JICA筑波センター
	2 月 18 日(火)	ラオスの子供たち帰国	
	3 月 1 日(土)	第12回運営委員会	中止
	4 月 11 日(金)	令和7年度第1回運営委員会	JICA筑波センター
	4 月 11 日(金)	令和6年度3次隊県知事表敬訪問 壮行会	県庁 JICA筑波センター(次号掲載予定)
	5 月 10 日(土)	第2回運営委員会	JICA筑波センター
	5 月 29 日(木)	(一社)協力隊を育てる会総会	欠席
	6 月 5 日(木)	令和7年度第1回理事会	JICA筑波センター
	6 月 7 日(土)	第3回運営委員会	中止
	6 月 25 日(水)	広報紙74号発行	

■これからの事業予定 [令和7年6月～令和7年8月]

	6 月 29 日(日)	令和7年度通常総会	JICA筑波センター
	7 月 4 日(土)	第4回運営委員会	JICA筑波センター
	7 月 9 日(水)	令和7年第1次隊県知事表敬訪問 壮行会	県庁 JICA筑波センター
	8 月 2 日(土)	第5回運営委員会	JICA筑波センター

事務局からの お願い

今年度の会費を下記まで納入下さるようお願い申し上げます。

指定口座 常陽銀行研究学園都市支店
普通預金 店番104 NO 1411153
口座名 茨城県青年海外協力隊を育てる会 会長 小川 一成

事務局だより

会員状況 ()は家族会員

区分	令和6年3月末現在	令和7年5月末現在
個人	65 (2)	56
団体	18	18
計	83 (2)	74

編集後記

本号の発行が編集者の都合上遅れに遅れたこと
申し訳ございません。

お願いした期限に寄稿いただいた方々にもお待
たせしてしまいました。

重ね重ね申し訳ございませんでした。

今号は小松崎事務局長の「訃報」から始まったこ
と、残念です。

当会も高齢化の波が寄せており今後の運営を真
剣に考える時期が来ているのではないかとわれま
す。